

模試と同傾向の出題 ～ベネッセ・駿台模試より～

国語 センター試験・第2問 問6	第3回ベネッセ・駿台マーク模試・ 第2問 問6
<p>問6 この文章の表現に関する説明として適切なものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">19</span> ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">20</span> 。</p> <p>① 文章中で「夜」は、明石が病床にありながらも理性と意志に基づいて冷静さを保っていられる「昼」と対比する形で、抑えていた内面の不安が表面化する時間として描かれている。</p> <p>② 33行目（手術死の危険は今度の場合、非常に多いのだぞ）、75行目（その気持はよくわかるが……）のように、この文章では（ ）は明石が内面の心情を述べるときに用いられている。</p> <p>③ 41行目「恥かしさを与えていた」・119行目「意気地のない自分を恥じて」という「恥かしさ」についての記述は、内気で恥ずかしがり屋ではあるが、忍耐強く誠実な明石の人柄を印象づけている。</p> <p>④ 133行目「ナゼ、ケムリハ、マツスグ、ユウグレノソラニ、ノボルノカ」という表記は、与えられた運命に敢然と挑もうとする明石の決意の固さとともに、孤独な明石の心情をも表している。</p> <p>⑤ この文章は、明石の視点から、時間の経過に沿って客観的な事実だけを淡々と述べていく形で、運命に抵抗しつつも翻弄されていく明石と妻の悲しみが克明に描き出されている。</p> <p>⑥ 文章の後半に登場する九官鳥は、孤独な明石自身の投影であり、また周囲の人間たちに明かすことのできない明石の不安を受け止めてくれる存在ともなっている。</p>	<p>問6 この文章の表現に関する説明として適切なものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">19</span> ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">20</span> 。</p> <p>① 「愛石家」という語は、3行目から29行目まで一貫して「アイセキカ」とカタカナ表記である。3行目と4行目の「アイセキカ」はわたしが意味を取れずに音だけ理解したことを示しており、これ以後の「アイセキカ」は漢字表記の「愛石家」の意味に限定されないことを表している。</p> <p>② 山形さんについては一貫して「山形さん」という表記がなされ、わたしの名前については48行目で「こいけさん」というひらがな表記がなされている。48行目の「こいけさん」は、ここでの山形さんの語りかけが、わたしの後悔を他人事として突き放すような、投げやりなものであることを表している。</p> <p>③ 63行目の「小石ども」の「ども」は、通常、名詞の後ろに付いてそれを見下す気持ちを表す。この場面で「小石」に「ども」を使用しているのは、わたしが子供の頃、石を好き勝手に扱ったことを受けており、他人が拾った「小石」を軽んじる気持ちが生じたことを表している。</p> <p>④ 98行目には「こんな目を山形さんは持っていたのだろうか」、99行目には「こんな目を山形さんはしていたのだろうか」と、類似の表現が連続して出てくる。これはわたしが山形さんに徐々に惹かれていくにつれて、石からは次第に心が離れつつあることを表している。</p> <p>⑤ 77行目以降最後まで、山形さんとわたしが発する言葉には、カッコで示されるものとカギカッコで示されるものがある。カッコを使うものはわたしの思念や、わたしが山形さんの思念を推測したものを表しているが、カギカッコを使うものはわたしにはつきり届いた声であることを表している。</p> <p>⑥ 114行目の「サククスとピアノの音が、あふれるように、外へ流れ出た」に使われている「あふれる」「流れ出る」という動詞は、通常「サククスとピアノの音」のような主語には使われないものである。ここではこれらの動詞を「音」に対して使うことによって、詩人であるわたしの表現技巧が以前と比べて洗練されたことを表している。</p>

今回のセンター試験の第2問小説・問6では、表現に関する6肢2択の設問が出題された。昨年は、文章を大きく4つの場面に分け、それぞれの場面における表現について問う形での出題であったが、今年は具体的な行数を指定して問う形となっている。

第3回ベネッセ・駿台マーク模試の第2問小説・問6でも、表現に関する設問を出題している。いずれの設問も、問題文と選択肢とを対照させて吟味すれば正解にたどり着ける設問だが、限られた時間の中で細部まで丁寧に読み取り、適否を判断する必要があった。

状況・心情の展開を意識しながら問題文を読み進め、それぞれの表現が意味する内容を的確に読み取り、処理する力が求められる出題であった。